

各位

NPO法人 全国移動サービスネットワーク

「移動サービス 認定 運転者講習テキスト（2010年度改訂版）」 第6版 発行のお知らせ

日頃より当会の活動にご理解ご支援をいただき誠にありがとうございます。

このたび、「運転者講習テキスト（2010年度改訂版）」を増刷するにあたり、主に高齢者の一般的な疾病や心の変化についての記述を削り、認知症対応についての記述を加えたほか、駐車禁止除外標章の交付条件や講習名称等の誤りを修正しました。

お手元に「運転者講習テキスト（2010年度改訂版）」がございましたら、お手数ですが、今後の講習実施の際には、本紙を増し刷りして配布、または挟み込むなどのご対応をいただければ幸いです。ご指導いただく講師のみなさまにも、事前に修正箇所をご確認いただきますようお願い申し上げます。今後も、役立つテキストにするため改訂を行っていきますので、お気づきの点がありましたらご指導ご意見をお寄せください。

【運転者講習テキスト・第5版からの主な修正点】

（1）主な修正・差し替え

項目	第5版ページ	内 容
第3章 移動サービスの利用者を理解する	P30	<p>●廃用症候群の段落全文差し替え</p> <p>●廃用症候群・ロコモティブシンドローム 人間は1週間寝たきりの生活をした場合、筋力の20%が失われると言われていいます。身体的・精神的機能を使わないこと（廃用）によって生じる、さまざまな機能低下を原因とする諸症状を廃用症候群と呼びます。また、運動機能に着目して生まれた「ロコモティブシンドローム」という言葉もあります。加齢による①骨・関節・筋肉等の運動器の疾患や、②運動器の機能不全によって「要介護」になりやすい状態になることを指します。関節等を傷める→体を動かさなくなる→筋力が落ちる→骨折や病気のリスクが高まる、という悪循環に陥らないために、日常生活を活動的に過ごすことが、一番の予防であり治療といえます。</p>
	P30	<p>（3）の4行目～末尾を差し替え</p> <p>（現）変化が起こる時期でもあり、個人差は・・・（末尾）寂しさが増す （新）変化が起こる時期でもあります。個人差はありますが、疑い深くなる、短気で怒りっぽくなる、話を何度も繰り返す、頑固・保守的になる、不安がる・寂しがる、といった変化が現れることもあります。</p>
第6章 移動サービスに関する法律・制度を理解する	P80	<p>下段の表一番上、右</p> <p>（現）（市町村有償運送運転者講習） （新）（市町村運営有償運送等運転者講習）</p>
	P83	<p>表中7</p> <p>（現）運転者として負傷者の救護や“二次事故”の防止… （新）運転者として負傷者の救護や“二次災害”の防止…</p>
	P84	<p>1）駐車禁止規制の適用除外の6行目以降</p> <p>（現）標章を所持して乗車した車両はすべて「駐車禁止除外指定車」になりますが、要介護認定・要支援認定を受けているだけでは対象になりません。 この標章を交付するのは都道府県公安委員会で、交付基準の詳細は都道府県により異なります。要介護高齢者でも除外指定が必要と認められれば交付される地域があるようですので、積極的に利用者による申請を</p>

			<p>勧めましょう。</p> <p>(新) 標章を所持して乗車した車両はすべて「駐車禁止除外指定車」になります。</p> <p>この標章を交付するのは交付基準の詳細は都道府県により異なります。原則として、要介護認定・要支援認定を受けているだけでは対象になりませんが、必要と認められれば交付される地域もあるようです。</p>
第7章 移動サービスの 運転に必要な 知識と心構え	P93	(3) 1行目	<p>(現) 利用者を見守り、声掛けといったコミュニケーションをとることが欠かせません。</p> <p>(新) 利用者の見守りや声掛けを通じてコミュニケーションをとることが欠かせません。</p>
	P94	(4) 1行目	<p>(現) 運転では利用者の安全・安心を守るのは何よりも優先されます。</p> <p>(新) 運転では、利用者の安全・安心を守ることが最優先です。</p>

(2) 新規挿入

項目	第5版ページ	内容
第3章 移動サービスの 利用者を理解する	P30	<p>(3) の前に挿入</p> <p><ワンポイント> 認知症のある人への接し方</p> <p>加齢による物忘れと認知症の物忘れは異なり、体験そのものを忘れてしまう認知症では、今言ったこと、さっき聞いたことを忘れてしまうのが代表的な症状です。他には言葉の理解ができず会話が難しくなることがあります。外見からは判断は難しく、本人は適切な判断が困難な状況がみられます。そのため、日時、場所がわからない、何度も同じことを話す、混乱や不安から感情の変化が急に起きて手が出る等の行動を起こすこともあります。外出先等では、環境が変わることで落ち着いていられずその場を動いてしまい、戻れなくなることもあります。無理に介助をしたり、行動を止めたりすると、何が起きたのかわからず拒否や攻撃的な行動につながる場合があります。介助する際は、利用者の話を否定せずに相手のペースに合わせてゆっくりと聞きましょう。決して話を止めないようにし、笑顔で話を受け止めます。もし、何かをしてほしいと求められたとしても、その希望に応えられない場面もあるでしょう。受け止めてもらえたという安心感を利用者が持てることが大切です。利用者がその時その時を穏やかに過ごせること、一人ひとりの尊厳を大切に優しく接することで介助者として受け入れてもらえることが、認知症の利用者の援助には欠かせません。</p>

(3) 削除

項目	第5版ページ	内容
第3章 移動サービスの 利用者を理解する	P29	<p>(2) の3~8行目 全文削除</p> <p>高齢者がかかりやすい疾病の傾向としては、以下が挙げられます。・免疫力、抵抗力、回復力の低下により重篤化しやすい・疾病が慢性化しやすく、合併症を起こしやすい・典型的な症状は見られないのに急変することがある・脱水症状、意識障がいを起こしやすい・薬の副作用が出やすい</p>
	P30	<p>4~11行目 全文削除</p> <p>「●骨・関節障がい」と「●白内障」の段落を全文削除</p>

(4) その他

・P18、P93、P105、P108、P115の「停める」⇒「止める」(常用漢字)に変更。

以上